

平成 30 年度第 1 回（通算第 95 回）
山口国際文化化学研究会

- 国境を越えていく「家族」— 中国福建省福清出身移民の事例から
- 発表者 国際文化化学研究科 准教授 張玉玲

人は、より良い生活を求めて常に移動する生き物である。国境を越えて移住する現象も、昔からあった。しかし、だれが（who）、なぜ（why）、この時期に（when）、そこに（where）、何をしに（for what）行くのか。世界各地の各時期に生じた移民はそれぞれ異なるストーリーを持っているのである。

本報告では、福建省福清出身の華僑（華人）に焦点を当てて話を進めていく。日本は 19 世紀のころから福清出身華僑の主な移住先の一つであり、今日も在日中国人総数の 1 割強の福清人が居住していると思われる。家族ごと、時には村ごとに移住しているのが彼らの移住の特色である。こうした福清出身者の移住を左右する要因は何か？また彼らの移住によって移住先の日本だけでなく、故郷はどのように影響を受けているのか？

報告者がここ数年福清や日本などでの調査研究をご紹介ながら、主に移住者側の視点からこれらの問題について考えていきたい。

- 日 時 平成 30 年 4 月 25 日（水曜日）16 時 25 分より
- 場 所 北キャンパス B202 教室
- 主 催 山口県立大学大学院国際文化化学研究科

（一般参加可）

教員世話人 山口 光 / 院生世話人 木谷 曜子、下川 まつゑ、十亀 陽太、栗栖 尚太郎